【資料 4-13】人文・社会系若手研究者出版助成による出版物

2020 (令和 2) 年度

	氏名	書籍タイトル
1	山内 由賀	『19 世紀フランスにおける女子修道院寄宿学校』(春風社、全 256 頁、2021.3)
2	宇佐美 達朗	『シモンドン哲学研究 ――関係の実在論の射程』(法政大学出版局、全 294 頁、2021.2)
3	今井 瞳良	『団地映画論 ――居住空間イメージの戦後史』(水声社、全 318 頁、2021.3)
4	谷川 嘉浩	『信仰と想像力の哲学 ――ジョン・デューイとアメリカ哲学の系譜』(勁草書房、全 384 頁、2021.2)
5	古川 真宏	『芸術家と医師たちの世紀末ウィーン ――美術と精神医学の交差』(みすず書房、全 360 頁、2021.3)
6	吉松 覚	『生の力を別の仕方で思考すること ――ジャック・デリタにおける生死の問題』(法政大学出版局、全 286 頁、2021.2)
7	松波 烈	『ドイツ語のヘクサメタ』(松籟社、全 159 頁、2021.3)
8	黒田 一平	『(プリミエ・コレクション 113) 文字と言語の創造性　――六書からネットスラングまで』(京都大学学術出版会、全 328 頁、2021.3)
9	千田 豊	『(プリミエ・コレクション 114) 唐代の皇太子制度』(京都大学学術出版会、全 210 頁、2021.3)
10	松原 史	『刺繍 (ぬい) の近代　――輸出刺繍の日欧交流史』(思文閣出版、全 394 頁 + カラー口絵 8 頁、2021.3)

2021 (令和 3) 年度

	氏名	書籍タイトル
1	町田 奈緒士	『トランスジェンダーを生きる ―― 語り合いから描く体験の「質感」』(ミネルヴァ書房、全 344 ページ、2022.3)
2	久保 豊	『夕焼雲の彼方に―― 木下惠介とクィアな感性』(ナカニシヤ出版、全 304 頁、2022.3)
3	島村 幸忠	『頼山陽と煎茶――近世後期の文人の趣味とその精神性に関する試論』(笠間書院、全 202 頁、2022.3)
4	仲間 絢	『『雅歌』の花嫁神秘主義とバンベルク大聖堂彫刻群』(三元社、全 228 頁＋カラー口絵 4 頁、2022.2)
5	原　塁	『武満徹のピアノ音楽』(アルテスパブリッシング、全 376 頁、2022.3)
6	牧野 広樹	『歌声の共同体　ドイツ青年音楽運動の思想圏』(松籟社、全 459 頁、2022.2)
7	津田 洋子	『(プリミエ・コレクション 116) フランス語現象文の意味論 : VOILÀ / IL Y A 構文の談話メカニズム』(京都大学学術出版会、全 312 頁、2022.3)
8	杉谷 和哉	『(MINERVA 人文・社会科学叢書 251) 政策にエビデンスは必要なのか ―― EBPM と政治のあいだ』(ミネルヴァ書房、全 289 頁、2022.3)

	実績
2010 (H22) 年度	8
2011 (H23) 年度	11
2012 (H24) 年度	12
2013 (H25) 年度	9
2014 (H26) 年度	13
2015 (H27) 年度	19
2016 (H28) 年度	17
2017 (H29) 年度	11
2018 (H30) 年度	10
2019 (R1) 年度	6
2020 (R2) 年度	10
2021 (R3) 年度	8
計	134